

すごい ⑦

タイムトンネル

～ 歴史・文化・風土をこめて ～



こんなに大きな土器を、縄文時代と同じようにつくるなんてすごいね！



なぜ、千葉公園にあるの？

平成2年、大阪での「国際花と緑の博覧会」に“過去と未来をつなぐタイムトンネル”と題し、このモニュメントを出展。そのことを記念して、博覧会後に移されました。

どんな願いが込められているの？

世界的に有名な加曽利貝塚を残した縄文時代は、自然と調和した文化を1万年もの間育んできました。この縄文人のすぐれた技術や知恵を現代によみがえらせ、未来の発展に生かそうとの願いが込められています。

タイムトンネルのつくり

鉄製のモニュメントは、太古から未来へぬけるタイムトンネルをイメージし、いくつにも連なるアーチに縄を張りめぐらせた形は、縄文土器をモチーフにしています。

中央の土器は、加曽利貝塚から出土した縄文土器をモデルとして、約5倍の大きさに拡大し、縄文時代とほぼ同じ方法で作られたものです。（高さ：約1.3メートル 最大直径：約1.1メートル）

縄文土器について



できあがり！



- 1 粘土紐を積み上げ、土器の形をつくる。（輪積という方法）
- 2 表面を平らに調整し、文様をつける。
（縄文は紐をひねったものを、まだ柔らかい土器の表面にころがしてつける）
- 3 数日間乾かしてから、水が漏れないよう内側をよく磨き、さらに陰干しし乾燥させる。その後、たき火で焼き上げる。（野焼という方法）